

中国四国地方における農商工連携に関する実証的研究

— 農業者と中小企業者の関係に着目して —

M124863 長尾博行

1. 研究背景と問題意識

少子高齢化や人口減少、グローバル化の進展は、地域経済に様々な影響を与えている。このような中で、近年、地域特有の農産物等を活用した農商工連携が企業の新たなビジネスチャンスとして、そして地域活性化の切り札として注目を集めている。国や自治体等は様々な施策を講じて、これらの取り組みを推進しており、全国各地で数多くの取り組みが始まっている。

農商工連携には、着実に継続し、成長する「先進的事例」、「成功事例」と評価される事業がある一方で、壁に突き当たり、試行錯誤を繰り返し、期待された成果に繋がらない事業も少なくない。そこで農商工連携を成功に導く、有用な示唆を探る。

2. 先行研究

農商工連携の実施過程で発生する課題と事業の成長を阻害する要因、そして発生した課題・阻害要因への対応という視点から先行研究をレビューした。

内発的發展論の限界や連携ビジネスの成立要件といった観点から、地域の農産物等を活用した事業の成長に対する阻害要因が指摘されているほか、事業への参加主体や発展プロセスに着目した課題等の存在が指摘されていた。

一方で、課題が発生した際に、誰が、どのように課題解決に取り組んでいるか。課題を解決して成長する事業と、解決できないまま試行錯誤する事業には課題への対応という観点からどのような違いがあるのか。このような問題意識に対する実証的研究については十分な先行研究が見当たらなかった。

3. 研究目的と仮説設定

本研究は、農業者と中小企業者の関係に着目する。継続・成長する事業と試行錯誤を繰り返す事業について、課題が発生した場合の農業者と中小企業者の対応の違いを明らかにして、現在、あるいは将来、農商工連携に取り組もうとする担い手の一助となるような有用な示唆を得ることを目的とするものである。このため、次の2つの仮説を設定し、検証した。

- ①農産物を活用した農商工連携事業が継続する条件は、農業者と中小企業者の間にお互いの知恵やノウハウを結集し、商品づくりを目指すという協力関係が構築されていること。
- ②事業の過程で発生した課題に対しては、事業全体を統括するリーダーが中心となり、農業者、中小企業者という本来の役割を超えて、課題の解決に

取り組み、克服していること。

4. 研究方法

農商工連携促進法に認定された中国四国地方の事業等を対象として、農業者と中小企業者双方にアンケート調査を実施した。事業に関する基礎的な情報を収集し、事業の実態を整理した。この中から5事例を選定し、聞き取り調査を実施して、仮説を詳細に検証した。

5. 中国四国地方の農商工連携事業を対象にした分析

5-1 アンケート調査

31事業を対象に分析した結果、農業者と中小企業者の間で、何らかの経営資源を持ち寄った協力関係が構築されている事業は、そうでない事業に比べて、事業が継続し、事業計画が進捗している状況が確認できた。

また、多くの事業の実施過程において、事業の継続・成長に負の影響を与える課題が発生しており、農業者や中小企業者の代表者である社長等が、粘り強く課題解決に取り組んでいた。その結果、一時的にでも課題を乗り越えることができれば事業が継続し、事業計画の進捗に繋がっていることが確認できた。

さらに、現在も継続している多くの事例で、連携外部の公的機関等からの支援が課題解決に寄与しているという実態が確認できた。

5-2 聞き取り調査

5事業について調査した結果、これらの事業については、農業者と中小企業者の間にお互いの知恵や技術・ノウハウ等を結集し、商品づくりを目指すという継続的な協力関係が構築されていること、事業の過程で発生した課題に対しては農業者、中小企業者の立場を超えて事業全体を統括するリーダーが中心となってその解決に取り組む、課題を克服していることが確認できた。

6. まとめ

農商工連携事業が継続、成長するため、継続的な協力関係の構築、リーダーの存在とその役割、信頼関係の醸成、外部機関の活用に関する有用な示唆を得ることができた。そして、事業の普及・発展には、公的機関の支援策の更なる充実が望まれる。

農商工連携は、連携形態、規模、扱う農産物、目指す市場など多岐に亘っており、これらの類型毎に実態を整理することなどが今後の課題として残された。